

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成26年12月解析分)

1 今月のピックアップ

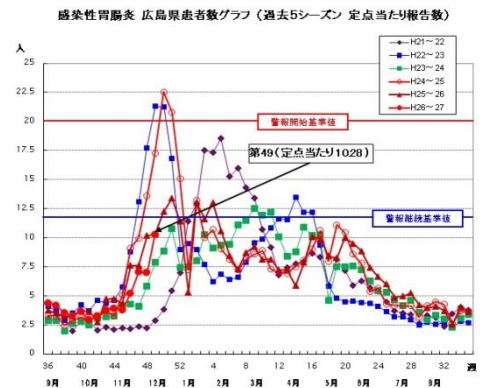
(1) 感染症胃腸炎の流行状況について(「感染症胃腸炎警報」発令:平成26年12月11日)

平成26年第49週(12月1日～12月7日)の定点医療機関からの感染性胃腸炎の報告患者数が、西部東保健所管内(東広島市、竹原市、大崎上島町)で警報開始基準値(定点当たり20)以上となりました。

感染性胃腸炎の流行が本格的になったと考えられるため、平成26年12月11日、県内に「感染症胃腸炎警報」を発令しました。

感染性胃腸炎は、冬季に流行のピークがみられるノロウイルスやロタウイルスなどによる感染症で、人から人へ感染する場合と二次汚染した食品から感染する場合があります。

特に、ノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があることから、健康被害を受けやすい高齢者施設、保育園や幼稚園などでは、次の点に注意していただき、感染の予防及び拡大防止の徹底をお願いします。



なお、感染性胃腸炎の最新状況等の詳しい情報については、こちらのホームページを御覧ください。

- 「感染症胃腸炎の流行状況」(広島県感染症・疾病管理センター「ひろしまCDC」)

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/ichoen-ryuukou.html>

- 「ノロウイルスに関するQ&A」(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

(2) インフルエンザの流行状況について(「インフルエンザ注意報」発令:平成26年12月25日)

広島県感染症発生動向調査における定点医療機関からの広島県全体のインフルエンザ報告患者数は、10月(57名)から11月(126名)には大きく増加し、12月に入り、第50週(12月8日～12月14日)に流行入りの目安としている値(定点当たり1.0)を超えました。また、第51週(12月15日～12月21日)には、西部東保健所管内及び広島市保健所管内で注意報開始基準値(定点当たり10)を上回りました。

インフルエンザの流行が本格的になったと考えられるため、平成26年12月25日、県内に「インフルエンザ注意報」を発令しました。

流行状況等の情報に注意していただき、「手洗い」や「咳エチケット」等の感染予防への取組をお願いします。

「県内のインフルエンザの流行状況」については、(ひろしまCDC)のホームページを御覧ください。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/hidsc-kansen-wadai-zyouhou-inf-zyouhou.html>

(3) 播種性クリプトコックス症について

クリプトコックス症の発生状況の正確な把握により、症例情報の集積が可能となり、疾病に対する医療の向上につなげるため、播種性クリプトコックス症が平成26年9月19日より全数把握対象疾患の五類感染症に追加されました。

◇播種性クリプトコックス症とは◇

Cryptococcus 属真菌による感染症のうち、本菌が髄液、血液などの無菌的臨床検体から検出された感染症又は脳脊髄液のクリプトコックス莢膜抗原が陽性となった感染症です。

潜伏期間は不明で、免疫不全の場合と免疫不全でない場合では、その臨床的特徴が異なるといわれています。

○免疫不全の場合

脳髄膜炎として発症することが多く、発熱、頭痛などの症状を呈し、リンパ節腫大や播種性病変として皮疹、骨、関節などの病変も認められます。

○免疫不全でない場合

中枢神経系の病変では、痙攣、意識障害などの重篤な症状がみられる症例から、発熱、頭痛等の典型的な脳髄膜炎症状を欠く症例まで様々です。中枢神経系の腫瘍性病変としてみられる場合は、腫瘍との鑑別が必要となります。

※ 播種性・・・病変が多臓器にわたっている場合に使用されます。

詳しくは、こちらのホームページを御覧ください。

- 「播種性クリプトコックス症」(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-140912-3.html>

2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成26年11月分(平成26年11月3日～平成26年11月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	126	0.27	7.57	↑	11	ヘルパンギーナ	23	0.08	0.05	↓
2	RSウイルス感染症	673	2.34	1.08	↗	12	流行性耳下腺炎	200	0.69	0.71	→
3	咽頭結膜熱	126	0.44	0.58	↗	13	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	670	2.33	1.09	↗	14	流行性角結膜炎	65	0.86	0.88	↓
5	感染性胃腸炎	1,655	5.75	6.22	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
6	水痘	295	1.02	1.49	↗	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.04	
7	手足口病	304	1.06	0.36	↑	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.28	↗
8	伝染性紅斑	4	0.01	0.09		18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	
9	突発性発しん	138	0.48	0.54	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	—	
10	百日咳	11	0.04	0.07	↗						

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成26年11月分(11月1日～11月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	57	2.48	2.16	↓	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	77	3.67	5.66	↓
21	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.79	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	12	0.57	1.36	↓
22	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.61	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.11	
23	淋菌感染症	24	1.04	0.99	→						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

●急増疾患 インフルエンザ(0.12 → 0.27)

手足口病(0.52 → 1.06)

●急減疾患 なし

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	40	結核(40)〔西部保健所(6), 西部東保健所(7), 東部保健所(3), 広島市保健所(11), 福山市保健所(5), 呉市保健所(8)〕
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症(3)〔西部東保健所(1), 東部保健所(1), 広島市保健所(1)〕
四類	6	つつが虫病(3)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(2)〔東部保健所〕, 日本紅斑熱(1)〔福山市保健所〕
五類全数	13	アメーバ赤痢(3)〔広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所〕, ウイルス性肝炎(B型)(1)〔広島市保健所〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔福山市保健所〕, 梅毒(2)〔北部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔広島市保健所〕